

平成 29 年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム「平」

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	039030007		
法人名	社会福祉法人 典人会		
事業所名	グループホーム「平」		
所在地	岩手県大船渡市大船渡町字下平24-1		
自己評価作成日	平成 30 年 1 月 10 日	評価結果市町村受理日	平成30年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.rhl.w.go.jp/03/i/ndex.php?acti.on.kouhyou_detai_1_2016_022_kani=true&amp;ji.gyosyoCd=0390300077-00&amp;PrefCd=03&amp;Versi.onCd=022">http://www.kai.gokensaku.rhl.w.go.jp/03/i/ndex.php?acti.on.kouhyou_detai_1_2016_022_kani=true&amp;ji.gyosyoCd=0390300077-00&amp;PrefCd=03&amp;Versi.onCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 30 年 1 月 31 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成21年4月に開所した当事業所は、今年度で8年目となる。  
平成23年の東日本大震災において、多くの地域が被災し、徐々に復興がすすんでいるなか、震災を通じて得た教訓を踏まえ取り組みを行って行くなかで、地域における事業所のあり方や今後の活動方法について日々模索しながら事業所運営を行っている。  
災害時における事業所の役割として地域住民の避難場所の確保、水や食料品のみでなく、皆がともに支えあっていける関係性の構築等、運営推進会議を通じ協議を重ねている。  
また、併設する小規模多機能型居宅介護支援事業所協力体制をとりながら利用者のさまざまなニーズに対応できるよう取り組みを行い、利用者とスタッフが家族のように共存出来る環境づくりを目指し、利用者を含めて考えた理念のもと、日々穏やかに過ごすことが出来るよう心がけている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大船渡湾が一望できる、素晴らしい眺めの高台に位置し、併設の小規模多機能型ホームと共に、震災時の様々なアクシデントを乗り越え、それを教訓に管理者と職員全員が「一緒に・楽しく・ゆっくり・のんびりと」を目標に、ほのぼのとしたホームの暮らしを支援している。また震災後に地域交流スペースを隣に設け、地域婦人部や子供達や来客等との宿泊を兼ねたホームとの更なる交流が期待されている。当法人は総合的な福祉事業を営み、臨機応変な対応が可能となっており、更に本年度、当ホームで看護師も職員に加わり、利用者・家族への大きな支えとなっている。管理者が併設の小規模多機能ホームと兼務し、ハード・ソフト両面にわたり、臨機応変に対応できている。法人内の各種委員会により、毎月交互に各種研修会を行い、また法人内での事業所同士の交換研修も実施し、更なるサービス向上につなげている。法人の方針に沿って、震災時の経験を活かし有事の際の福祉避難所となっているほか、震災体験の説明を広く説いて回りその風化を防いでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

平成 29 年度

事業所名 : グループホーム「平」

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングや勉強会を通じて、理念を確認、共有し、継続して取り組みを行えるようにしている。理念は皆が見えるところに掲示すると共に共通の目標として実践につなげるよう取り組みを行っている	一緒に、楽しく、のんびりとした暮らしを目標に、毎月の職員会議時に、これまでの暮らしの状況を話し合い、さらに、今後の在り方を全員で検討し、共有して実践に繋げている。のんびりとした暮らしの中にも、リズム感のあるケアを心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を計画的に行い、その中で地域との交流を日常的に行えるよう取り組みを行っている。広く事業所の存在を知ってもらうよう、地域に働きかけるよう取り組みを行っている	子供達、婦人部、ボランティア、地域住民との日常的な交流を念頭に、震災後、事業所に隣接して交流スペースを設けた。稀に見る眺めでもあり、運営推進会議のメンバーが中心になって関係者に働きかけた結果、春・夏・秋ともに利用率が向上し、ホームとの交流も確実に増えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の相談については即時対応するよう心がけている。外部からの相談や見学等ある場合はその都度丁寧に対応するよう心がけ、自然と溶け込めるよう雰囲気作りに取り組んでいる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の開催場所を事業所内とすることで、普段の職員の様子を知っていただきながら、情報交換を行っている。可能な限り多くの方に参加していただけるよう心がけ、多方面からの意見をいただけるよう取り組みを行っている	併設の小規模多機能ホームと合同で開催している。両施設の生活状況を同時に眺めることが出来る和室で会議が行われている。委員からは防災・避難に関する意見や利用者のケアについての意見が多く出されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において、地域包括支援センター担当者に委員として参加していただき、事業所の運営状況の報告を行い、事業所の状況を把握していただき、随時、相談や助言をいただけるよう取り組みを行っている。また市主催の地域連携ケア会議に参加し、多事業所との連携が図れるよう取り組みを行っている	ホームまでの急な上り坂は、事業所の公益性から市が除雪等をしている。また市の地域包括支援センターとは、推進会議や市主催のケア会議等で同席し、指導・助言や情報を頂いている。防災の日の訓練は市と連携した活動を主眼にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、スタッフ全員が研修会を通じて、意見交換を行うことで認識を高めている。夜間は防犯のため、施錠を行うが日中は行わない。個々のスタッフが意識合うことで日々の関わりを工夫している	身体拘束委員会でビデオによる研修のほか、ホーム内での職員の体験に基づいて作った資料による講習会を開き随時話し合いの機会を持っている。また行動抑制に繋がるような言葉遣いがあった際には、互いに注意し確認し合っている。居室と玄関入口には、ワイヤレス人感センサーを備えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体ケアに関する虐待だけでなく、言葉使いにも注意を払い、日々のケアに当たるよう心がけている。また、事業所を広く開放することで情報収集や早期の発見に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等の機会を有効に活用することで理解を深め、事業所内においても共有を行い必要に応じて活用できるように取り組みを行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス利用開始前には契約書、重要事項説明書を用いて十分な説明を行い同意を得ている。サービス開始後も随時相談に応じるよう心がけている。また、改正時には約款を変更し、再度説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には利用者、ご家族に参加を頂き、意見をいただける機会を作っている。また、契約時に重要事項説明書の説明の中で苦情受付機関の紹介を行っている。ケアプランの更新時にはご家族から要望を頂き、利用者、家族の思いに気付けるよう心がけている	家族からは運営推進会議時や面会で、来訪された際に要望等を伺うようにしている。利用者とは日々の会話や入浴時、ドライブ等の際に、それとなく真意を把握するように心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所ミーティングに手事業所の運営について意見交換を行っている。また、月1度程度法人内事業所会議において、職員の意見や要望を事業所の意見として報告させていただき、法人全体の運営にスタッフの意見が反映されるよう取り組みを行っている	管理者は年2回、全職員と個人目標確認の面談を実施し、併せて意見・提案を聴いている。管理者は必要に応じて法人本部の毎月の会議の際に提案し、職員の意見反映に努めている。ホーム内では随時職員の意見・要望を受け止めるよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の就業規則や給与規定に沿った労務管理を心がけ、就労時間内での就業に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内各種委員会に適任者を参加させ、専門的に業務に従事できるよう努めている。事業所内での研修会の他に各種研修会にも適任者を参加させることで専門的な業務に従事できるよう取り組みを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内で運営している事業所同士での研修会に積極的に参加し、情報交換を行ったり、事業所同士での交換研修、各機関からの調査や視察などにも対応することでサービスの質の向上に努めている		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の生活歴や病歴を本人や家族、それまでの関係機関から情報収集し、アセスメントを行ったうえで職員全体でカンファレンスを行い、共有し、その方一人ひとりがその人らしい生活を行う事で安心の確保に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の話を客観的に捉え、優先順位に気を配りながら事業所の特徴と本人または家族の役割を見極め支援していくよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の思いや不安に共感する姿勢で相談に対応出来るよう時組を行っている。入居者も家族とスタッフが共に本人を支えていけるよう説明を行い、同意を得て対応出来るよう話し合いを行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者一人ひとりの特性を見極め、日常の作業を一緒に行うように心がけている。また、朝礼やスタッフミーティング、運営推進会議等あらゆる場面に参加していただいたり日々の関わりのなかでその人らしさを大切にするかかわりを工夫している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的受診対応を家族と共に行う事を通じて体調への気遣いを意識し、日々の連絡からも本人を支える環境作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外泊時の支援や手紙のやり取りをする際にお手伝いをしている。生活暦を把握することで友人や知人との関係が切れないように努めている	利用者の受診時に家族と外出し、外食をしたり、馴染みの美容院に行ったり、お墓参りをしてる方もいる。時には知人が来訪されたり、遠方から誕生プレゼントが届くこともある。外泊や手紙のやり取りをする際にも職員がお手伝いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の生活パターンを大切にしながら、利用者同士が顔を合わせやすいように座る席を考え、会話の仲介に入っている。誰かが側にいるという安心感を持って生活でき、いたわりの声かけが行えるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族と本人が安心して暮らせるように、他の事業所と連絡を取り合いながら支援している。サービスの利用が終了しても、本人と家族の状況を把握出来るように努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の希望にできるだけ添えるように取りみを行っている。困難な場合はご家族に相談し、助けもいただいている。本人が本当にしたい事を言葉で表現できる場合もあり、そこを汲み取ることで本人本位に支援出来る様に心がけている	日常の会話の中からさりげなく思いや意向をくみとる様努めている。場合によっては、家族から伺い確実に把握するように心がけている。入浴時やドライブ等の際には会話が弾み、意向を把握しやすい傾向がある。意向のポイントは記録して職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との関わりの中からヒントを得て、家族から得る生活暦をもとに本人の馴染みの生活をひもとき、カンファレンスを行い記録している。また、ミーティングを通じて情報の共有に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で、心身の状態を見極めながら状態観察と把握に努めている。食事、睡眠、排泄が普段と違う状態に気付けるようケース記録を確認しながら記入し、朝夕のミーティングで申し送りをを行い共有するよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全員の気付きやこれまでの経緯を話し合いを持ちながら介護計画を作成している。必要時には見直しを検討し、利用者や家族の意向を確認すると共に計画を変更し、支援している。計画作成時にはその人の出来ることに目を向け利用者本になるように努めている	既存のプランを回覧し、職員が順に修正等を朱書した上で、職員全員でカンファレンスを行い、原案をつくり、プラン作成に至っている。必要に応じ医師・看護師からの意見も加味し、家族の意向も聞いて確定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子のほかにも、会話の内容や表情等を詳しく記録するようにしている。その他、注意深く様子を見守りたい内容に関しては、支援経過用紙に記録している。家族からの意向、楽しみ事もプランに生かせるよう取り組んでいる。記録内容をもとに介護計画を見直している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族と連絡調整しながら、自宅への帰宅、外泊を行っている。また、利用者のニーズから楽しみごとを計画し実行している。併設されている小規模多機能と合同で行事を行う事も事業所の強みのひとつとなっている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々が来所され交流をはかる事で暮らしの楽しみにつながっている。また、避難訓練などの有事の際には地域住民の方々に声を掛けて協力を依頼している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医での受診を継続していただけるよう取り組みを行っている。身体状況を家族に連絡し、受診調整を行っている	2名が協力医で、あとは以前からのかかりつけ医を継続している。車椅子の利用者は職員が対応し、その他は家族が同行し受診している。ホームでの様子はメモで医師に届けている。通院後家族と外食を楽しんでくる利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	薬の変更や利用者の様子に変化があった場合は看護師に相談し、対応している。必要に応じて電話での連絡・相談を行いアドバイスも頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は直接入院先に向き、状態について病院看護師との情報交換に努めている。また、退院の時期や退院後の対応については病院関係者や家族との話し合いを重ね慎重に進めていけるよう心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人を取り巻く環境、関係機関との連絡を密に行う事で家族及び本人が安心できるようなチームケアを心がけている。重度化が進んでいる現状においては今後の方針について本人及び家族と慎重に話し合いを重ねている。	看取り指針は作成されており、入居時に本人・家族に重度化・終末期の対応を説明し、理解を得ている。職員間のチームケアで努力し、最大限の生活支援を行っているが、やむを得ず重度化が進んできた際には、家族との話し合いを密にし、迷わず対応されるように心がけている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えて、マニュアル・緊急連絡網を作成することで早急に対応ができる体制を確保している。また、職員が救急救命講習を受講するなど、緊急時に即急に対応できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々にも協力をいただき、昼・夜の避難訓練を行っている。地域住民の協力依頼についても運営推進委員会を中心に呼びかけを行い、地域住民との意見交換も行っている。福祉避難所として有事の際の避難所生活についても説明を行っている	昼夜の避難訓練・通報・非常食・地域の応援はともに、問題ないが、当地域は土砂災害危険区域となっており年2回の避難訓練を実施している。避難時の外灯も整備済みで、有事の際の避難場所に指定され、地域の方々を受け入れる体制が出来ている。また、震災体験の説明を広く説いて回りその風化を防いでいる。	高台で周囲の森林も近く、土砂災害への対応も必要だが山火事も心配である。消防団員を含む地域住民との有事の際の支援、役割分担、避難方法等について、運営推進会議等で話題にし、有事に備えられる事を期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の性格や現在の状況、状態の把握に努め、各職員がその時々状況に応じた言葉かけや対応ができるよう取り組みを行っている。また、馴れ合いによる不適切な言葉には十分注意しながら入居者が使い慣れた方言も使いながら対応している	日常の利用者との関わりに於いて、職員は利用者個々の性格・長所・短所を把握しており、人生の先輩としての尊重したケアを心掛けている。利用者の潜在能力を引き出すことも心得、見事な絵画・習字等の作品を掲示し、一人一人の生き甲斐に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の記録をもとに利用者の意向を引き出せるように会話を工夫し、その人が自己決定しやすい環境作りに努めている。指示的な言葉がけはしないように心がけ自己決定できるような言葉がけを行うようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活に合わせ、本人のペースで生活出来るよう急がせず待つ姿勢を持って関わられるよう取り組んでいる。安全のため、直ぐには希望に添えない場合でも、指示的な言葉がけにならないよう注意しながら支援を心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡の前での整容、化粧をされる方には準備等を行い、時にほめる言葉がけをしている。また、希望に沿って美容室に出かけたり、困難な場合には地域にある理容室に協力していただいている。好みの洋服等を本人に選んでいただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好調査を定期的実施し、嗜好を把握している。また、季節に合った旬の食材を利用して提供することで見た目でも楽しめる工夫をしている。一緒に調理を行い、味付け、味見をしていただきながら入居者に役割を持っていただけるよう支援を行っている	毎年4月に嗜好調査を行い、職員は全員分を把握している。献立は職員が交代で考え、出来るだけ利用者が好む食事を心掛けている。利用者が調理を職員に教えたり、片付け等も自然に手伝い、キッチン風景は家庭そのものである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量をチェックし、その人に合った食事量を提供している。疾患によって食事内容や量を調整しているため、全員で共有し行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員が口腔ケアできるよう声かけ、誘導を行っている。本人の歯ブラシとコップの使用、椅子を用意して楽な体制で出来る様にしている。入れ歯の不具合な入居者は歯医者に同行したりすることもある		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、便意や尿意のサインに気付けるように努め、個々に合わせた排泄介助を行っている。定期誘導する場合は記録し自立に向けた支援につながるよう努めている	自立が3名、夜間のみオムツを使用している利用者が2名いるが、リハビリパンツだけや布パンツの利用者がほとんどで、自立している。このままの状態を維持出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の際には乳製品や食物繊維の多い食材や消化のよいものを取り入れていただくよう取り組みを行っている。下剤や整腸剤等も必要に応じて服薬いただくよう記録や申し送りもしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の入浴対象者については利用者の状態や要望に沿って行っている。個々に合わせた入浴時間の調整は難しいが気持ちよく入浴して頂けるよう、日替わりの入浴剤を使用したり、湯温や室内のおんどにつても考慮している。入浴後のケアもできるだけ本人の要望を汲んでいる	その日の入浴対象者は毎朝記名し、体調管理データは職員全員で共有している。週2~3回の入浴としているが、拒否されても時間・日を変え誘導している。入浴中は会話が弾み、利用者の希望等の必要な事項は記録し、職員間で共有している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度、湿度や季節に合わせた布団の枚数、着ている服の調整には気を配っている。その人に合わせて居室やソファで休息がとれるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師から薬の効能や副作用について指導を受けながら学んでいる。利用者の服薬している薬の情報が分かるように一覧表にし、閲覧出来る様にする事で共通の理解が出来るように取り組んでいる。服薬時の確認は原則2人で行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味活動の継続的支援を行えるよう取り組んでいる。また、家事を中心とした自立支援を行いながら役割を感じられるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の食材の買出し時には、利用者と一緒にいたり、季節や天候に応じてドライブに出かける等支援を行っている。家族と共に外出する利用者も多くなってきている。誕生会等の行事を戸外で行い外出する機会もできるだけ設けるようにしている	法人本部での夏祭りに隣接の小規模多機能ホームと一緒に参加し、大盛況であった。今年は大船渡湾を眺めながら、ウッドデッキで、家族会も兼ねてバーベキューを楽しんだ。盆・正月の帰宅も勤めており、2~3名が帰宅に結びついている。全体に、家族との外出が多くなってきている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しいものや、必要なものがある場合には、家族へ連絡を入れ了解を得て、本人と一緒に買い物に出かけたりすることもあり、利用者のストレス発散となる場合もあると考えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から要望のある場合は、ほとんど家族に電話をして用件を伝えている。場合によっては代弁させていただくこともある。家族との会話により安心していただける場合もあるため今後も継続していきたい		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や出窓に季節を感じられるよう装飾等工夫し入居者が生活しながら季節を感じられるよう取り組んでいる。また、家具等の配置も居心地の良いものとなるよう工夫している。	吹き抜けの天窓からは、優しい光が差し込んでいる。広いリビングにはフラットの畳敷きの部分やキッチンがあり、窓からの眺めも良く、暖かい季節にはウッドデッキで食事をする事もある。職員と一緒に作った作品や、絵の得意な利用者を書いた絵画が飾られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る位置や椅子、テーブル等自然に低位置となり、馴染んで生活出来ている。利用者同士のトラブルには十分な配慮を行いトラブルとならないように配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際や入居後も、自宅で使い慣れた家財道具や本人の馴染みの物を持ち込めるよう家族と連絡している。布団や写真等を置く事で自宅の延長線上にあるような居心地の良い空間を提供できるように支援している。家族の協力も得られている	居室にはベッド・洗面所・トイレ(3部屋)があり、畳を使用されている方もいる。それぞれ自宅で使ってたものや思い出の写真や造形作品・書などが持ち込まれている。どの部屋も、必要な家具・衣類が持ち込まれ、すっきりとした清潔感が漂っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所の造りをシンプルな造りとし、職員の見守りがしやすくなることで利用者の安全が確保されている。トイレに貼紙をしたり、各居室には名前を貼り、表札とする事で自分の居室と分かりやすくなるよう努めている。危険な箇所は職員全員で把握できるよう取り組みを行っている		